

みんなで「プラスチックごみ問題」について考えよう。



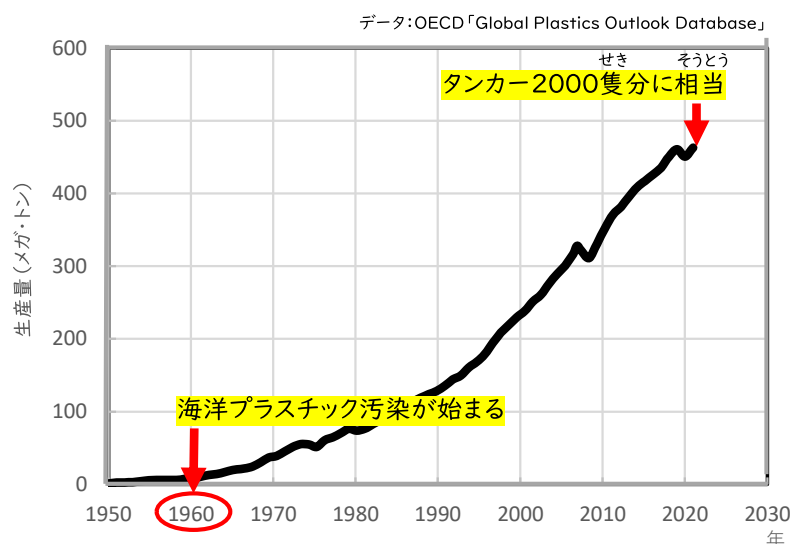
1. プラスチックごみ問題

プラスチックは石油などから化学的に合成した樹脂で、私たちの豊かな暮らしには欠かせない便利な材料ですが、自然界では分解されにくく、きわめて長く残り続ける物質でもあります。

このため、正しく処理されなかったプラスチックごみが自然界に流出することで、景観の悪化や生態系への影響だけでなく、私たちの健康への不安の原因にもなるといった報告もあります。海外の研究によると、世界全体で年間800万トンものプラスチックごみが海に流出しているとされ、2050年には海洋中のプラスチックごみが魚の総重量を超えるという試算があります。

また、海岸に漂着したプラスチックごみの多くは、内陸域から発生していると言われており、海と川でつながっている山梨県も、プラスチックごみによる海洋汚染問題の当事者として考えていかなければなりません。

世界のプラスチック生産量の推移



日本国内から海へ流出するプラスチックごみの量

- 国や研究機関などで様々な量の推計が行われ、年間で数百トン～数万トンと言われている。
- 推計の中には、山梨県から海へ流出するプラスチックごみの量が年間12.9トン(中央値)になるとしているものもある。

動物への影響



県内河川の様子

県内の河岸などでは、多くの散乱ごみが確認できます。散乱ごみは、正しく処理されなかったごみやきちんと保管されていなかった製品などが、雨や風によって川に流出したものと考えられます。残念なことに、これらの光景は、めずらしいものではありません。



ペットボトル容器の散乱は非常に多い



工事用資材のような大きなごみも見られる



レジ袋や農業用マルチシートが木の枝や草に引っかかっている

2. マイクロプラスチック

川や海などに流出したプラスチックは、紫外線や熱、摩擦や波などによって、小さく砕けていきます。水中や河岸・海岸で砕けるものもあれば、陸で砕けてやがて川や海に流れこむものもあり、一般に大きさが5mm以下になったプラスチック類を“マイクロプラスチック”と呼んでいます（化粧品のマイクロビーズや洗濯洗剤・柔軟剤のマイクロカプセルなど元から微小なものもあります）。マイクロプラスチックはより小さくなることで、生物が体内に取りこみやすくなるため、生態系への影響や人の健康への影響も心配されています。

マイクロプラスチックは、一度、自然環境に流出してしまうと、回収することはきわめて困難であり、海などでは分解されないまま、広い範囲で漂い続けることになります。

あらゆる場所に存在するマイクロプラスチック



発生源となる製品など



3. 県内河川のマイクロプラスチック

山梨県では、県内の多摩川水系・相模川水系・富士川水系の河川において、マイクロプラスチックの状況調査を継続的に行っています。

調査を行ったすべての河川で、マイクロプラスチックやその発生源となるプラスチックごみが見つかっています。

かまなしがわ にらさき
釜無川（韮崎市）



さいしゅ
採取されたマイクロプラスチック
（左からポリエチレン・ポリプロピレン）

ふえふき
笛吹川（中央市）



採取されたマイクロプラスチック
（左からポリエチレン・ポリプロピレン）

たばがわ たばやまむら
丹波川（丹波山村）

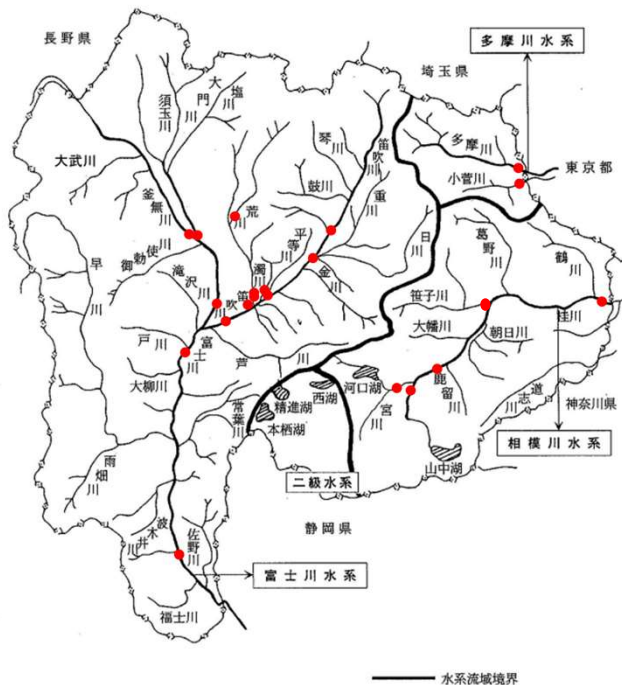


採取されたマイクロプラスチック
（左からポリエチレン・PEとPPの化合物）

河川マイクロプラスチックを **もつと** くわしく

グラフ1のとおり、すべての調査地点でマイクロプラスチックが確認されています。マイクロプラスチックの個数は、調査時期や天候などの条件で変化することから、調査は、マイクロプラスチックの存在やおおまかな傾向を知ることを目的としています。グラフ2では、採取したマイクロプラスチックの個数をもとに1㎡の河川水に含まれる個数を推計した「個数密度」について、材質別で表しています。

調査地点 (R1～R6年度)



《調査方法》

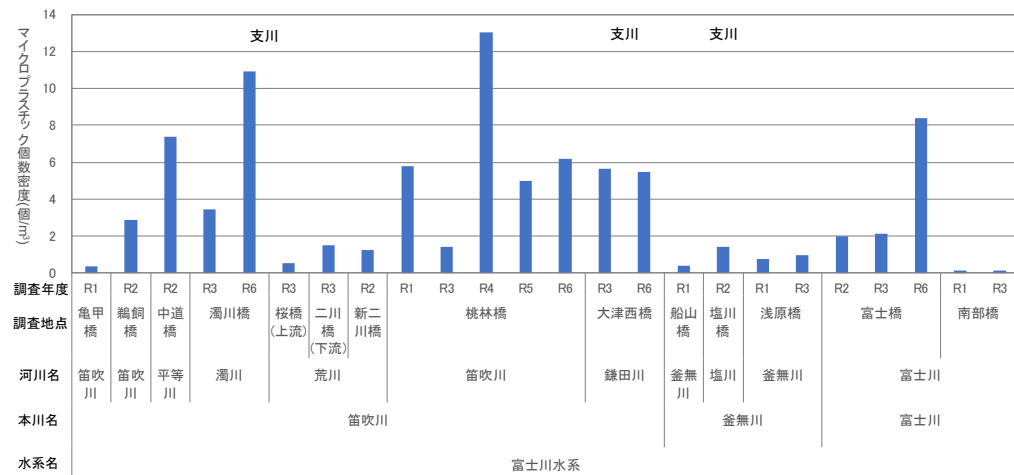
- ・ 平常時の水かさの時に、流心部（流れの速い部分）で採取
- ・ 採取には、網の目が0.3mm、網の入口の径が30cm、網の長さが75cmのプランクトンネットを使用



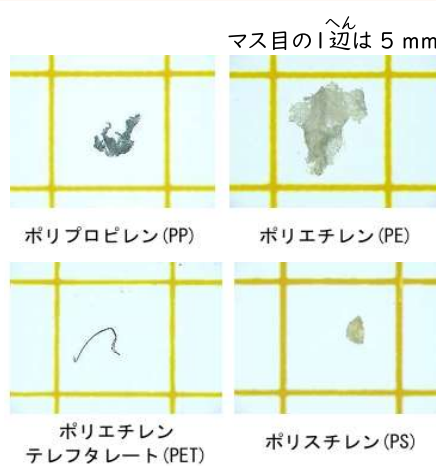
プラスチックの各成分の一般的な用途

材質	一般的な用途
PP (ポリプロピレン)	家電製品 食品容器 繊維 人工芝 等
PE (ポリエチレン)	包装材 (袋、食品容器等) シャンプー容器 各種フィルム 人工芝 等
PET (ポリエチレンテレフタレート)	ペットボトル 繊維 フィルム 等
PS (ポリスチレン)	食品容器 食品用トレイ カップ麺容器 等

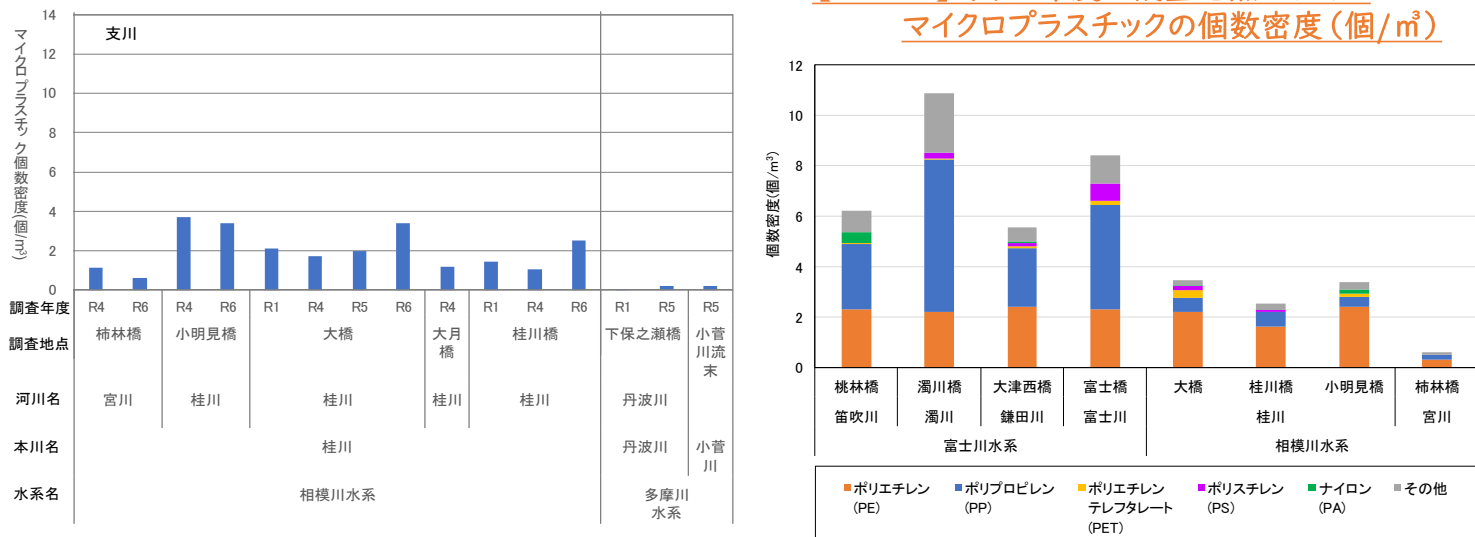
【グラフ1】各調査地点におけるマイクロプラスチックの個数密度 (個/㎡)



採取されたマイクロプラスチックの例



【グラフ2】令和6年度の調査地点におけるマイクロプラスチックの個数密度 (個/㎡)



4. 私たちにできること

プラスチックは丈夫で長持ちし、安価である優れた素材ですが、ごみとなって自然界に流出してしまうと、景観の悪化や生態系への影響など、さまざまな問題をもたらします。プラスチックごみの問題を解決し、美しい山や川、そして海を守るためには、プラスチックごみを正しく処理することが何より大切です。後を絶たないポイ捨て行為や、意図せずにプラスチックごみが流出してしまうこともあり、完全に自然環境への流出を防ぐことが難しいのも事実です。

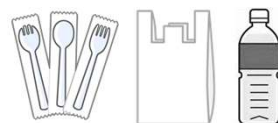
では、私たちは、どうすればプラスチックごみを増やさないようにできるのでしょうか。それは、プラスチックと賢く付き合っていくこと、すなわち「プラスチック・スマート」です。これは、生活に本当に必要なプラスチックを必要な量だけ利用するという考え方が基本となります。具体的な行動としては、ごみの量を減らす(Reduce)、繰り返し使う(Reuse)、再利用する(Recycle)という「3R」を意識した生活スタイルに変えていくことです。これによって、たくさんあることが当たり前になっている身の回りのプラスチックを減らすことが可能となり、結果としてプラスチックごみの削減にもつながっていくのです。

山梨の豊かな自然環境を守り、海洋汚染を防止するため、プラスチックごみ問題の解決に向かって、山梨県みんなで取り組んでいる姿「やまなしプラスチックスマート」の実現を目指していきましょう！

プラスチックの 3R

Reduce(リデュース)

ワンウェイプラスチックや不要なプラスチックの使用を「減らす」



長く使える製品や過剰包装をしていない製品を選ぶことも大切！

Reuse(リユース)

使い捨てをせずに「繰り返し使う」

フリーマーケットやリサイクルショップの活用、リメイクで再利用、マイボトル・マイ箸などもcool！

Recycle(リサイクル)

再び原材料などに「再利用する」

ごみとして捨てずに、分別して資源ごみ回収場所に持ち込もう！

そのほかにもできる R

• Refuse(リフーズ)

ごみになる物の提供を「断る」

• Rental(レンタル)

「借りて使う」

• Repair(リペア)

「修理して使う」

• Return(リターン)

販売元・提供元に「戻す、戻すことができる」

Returnable(リターナブル)

(空き瓶やリユース食器の返却、携帯電話を販売店に返すなど)



👉「やまなしプラスチックスマート」については山梨県ホームページへ

